

2012年度事業計画

社団法人 丹波青年会議所
第41代理事長 藤田 瑞夫

所 信

はじめに

(社)丹波青年会議所は、1972年に「明るい豊かなまちづくり」を目指し、この地に誕生しました。昨年創立40周年という節目の年に記念式典、記念事業等を通じて私たちのあるべき姿、何を指すのか、そして多くの人々にお世話になっている感謝の気持ちを改めて心に刻むことができました。そして、私たち先輩諸兄が一年一年築き、引き継いでこられたこの40年間の歴史と伝統をしっかりと継承させて頂き、50周年に向けての新たな一歩を踏み出すこの年に、地域起点の発想でJC運動を展開して行く所存でございます。

また、2011年3月11日14時46分、一瞬にして多くの命、まちや思い出を奪い去った大震災、さらに原子力発電所の事故により住み慣れたまちを離れることになった人々を想うと自分自身が生かされ生きていること、愛するまちで変わらぬ生活ができることに改めて感謝の気持ちでいっぱいになります。この大災害は、間接的にも日本中に大きな影響を及ぼしています。今何をしなければならぬのか、それは私たちがこの状況をしっかりと受け止め、微力であってもつよい心で継続的に復興支援を続けることを共に考え行動していきましょう。

がんばろう NIPPON

～ 生かされ 生きて 生かす～

新たな一歩を踏み出すこのときに、自分自身が廻りの人に助けられ、支えられ生かされていること、その中で生きていることに感謝しなければいけません。そして今こそ損得勘定ではない、単純にこのまちに、この日本に貢献したい心から生まれる行動で自分自身を生かすことができるつよい人間力を持たなければなりません。

さあ 立ち上がろう！！

丹波活性のために

昨年創立40周年記念事業の一つに10年先を見据えた丹波青年会議所のビジョン、田舎力溢れる丹波の暮らしと「つながり」をデザインする を作成させて頂きました。いざ行動するときを迎え、複雑で変化の激しい外部環境に惑わされることなく、しっかりと地に足をつけ活動していきましょう。

まちづくりの原点はひとづくりであるとも考えます。この丹波にも「故郷を愛する想い」や「夢をかなえる想い」など各分野で活躍されている人は多くおられます。その功績や活動に人々が共感し応援する機運を広め、志を同じくする人の輪が広がり、活力ある丹波へと繋がることだと信じています。

誇りのもてる、魅力ある地域であるために共に考えていきましょう。

人財開発とは（人間力・経営力）

「企業は人なり」という言葉があるように、企業経営においても、まちづくりにおいても、やはりそれを成すのは人であると考えます。また、人間関係で大切なことは、人間性、人柄が重要です。あの人と一緒に仕事がしたい、何かの役に立ちたいという感情は技能的なもの以上に、人間的な魅力があって生まれるものです。人は論理を持って説得され、感情を持って動かされるものです。卓越した能力を持っていても、決して自惚れることなく、謙虚さも必要です。自信を持つことは必要ですが、人財開発の基本は、「利他の精神」ではないでしょうか。

わたしたちは自己修練を積み重ね、まだまだいろんな学びを繰り返し人間力、経営力の向上に努めていきます。

次代の宝

次代を担う人財（宝）の共育をするには何が大切だろうか。

まずはこの地域に生まれて良かった「この丹波が大好きなんや」と心から誇りに思えるまちにしていくこと。それを伝えていくことが大切だと考えます。丹波の魅力と共に探し、発見していき自分たちの身体で感じていただきたい。そして、次代を担う人財（宝）の未来を考えるうえで、各分野における一流を知ること触れること、自分自身の目標を見つけ出す機会をつくる必要があると考えます。今の若者には夢がないという話をよく耳にしますが、物よりも情報が多すぎる時代で、ある程度の充足感があり、何かを求めるといった意識が薄れているのではないのでしょうか。しかし、自分の可能性をかけてチャレンジすることを目の当たりにし、見つけたときには努力を惜しまずに行動できるはず。すべては大人の背中を見て育ちます。

子どもは花の種、私たち地域の大人が生きる活力や魅力を伝え、時にはやさしく見守り、そして共に生きることで子どもたちはきれいな花をこの地で咲かすでしょう。

組織進化

わたしたち青年会議所は、社会から認められ必要とされる団体であるために、組織のあり方について、時代に即した対応が必要だと考えます。情報公開や広報に力を入れたより開かれた組織を目指します。

また、新公益法人制度改革関連3法の施行にともない現在は特例民法法人という立場です。移行申請の期限は2013年であり、本年度は具体的な準備を進めるべく責任ある年度です。

～一般社団法人を選択する理由～

私は青年会議所の理念や活動を考えると公益社団法人格を得るに相応しい団体であると確信しています。しかし、公益法人格を取得するという事は社団法人丹波青年会議所のように会員数が30名程度の青年会議所において、相当の覚悟を必要とする行為であると考えます。周知の通り、一度公益法人格取得した後に諸規定を満たすことができない場合は財産没収の上、組織の解散しかありません。また、会員数の減少は総予算の減少に直結し、結果として事業費率が減少することになります。公益事業比率50パーセントを常に超えなければという意識が生まれ、公益ありきの事業形態になってしまうことも危惧しています。将来に対しての組織の存続を含む責任を果たす為に、わたしたちは一般社団法人を選択いたします。

絆 KIZUNA

40年間の歴史と伝統は、永きにわたり多くの先輩たちが「明るい豊かなまちづくり」をめざし流されてきた、汗と涙の結晶だと思います。そしてJCで一緒に活動した絆は時間が経ても色あせることはありません。だからこそ、そばにいる友を大切にしよう。

JC活動を支えてくれている会社に感謝しよう。あたりまえのように側にいて支えてくれる家族を幸せにしよう。

そして、やさしくあるためにつよくなろう！！

JC拡大

JCの最大の財産は、人との出会いから育まれるヒューマンネットワークであると思います。そして、そのネットワークを一人でも多く、志を共感し広めていく会員拡大こそが青年会議所の永遠の事業であると思います。英知と勇気と情熱は青年に与えられた使命であり、特権と言えます。まちの未来はどれだけ元気な青年が満ち溢れているかで決まり、まちの活力はそこから生まれてきます。また、会員拡大事業は青年会議所運動を地域に知って頂くよい機会にもなります。会員拡大は全会員が取り組む事業として捉え、積極的に取り組んでいきましょう。

最後に

まだまだ先行きの見えない不安定な時代です。JCなんてやってる場合かと言われることも多々あります。でも、JC活動辞められない。

先輩たちにいろんなことを教えて頂き、知らぬ間に義理人情という言葉が体に染みつき、

少しの無理なら、少しの無理ならと心に言い聞かせ、先輩たちの背中を追いかけた。
そして先輩たちの J C プライドを引き継ぎたいと心の底から思った。
少しでもこのまち、この日本のために貢献することができればこんな幸せなことはないと
思うようになった。
背伸びなんてしなくていい、ただ自分の限界を決めずに J C をやってみよう。

まだまだ私たちは先行きの見えないトンネルの中にいるのかもしれない。
「トンネルは、まっすぐだけではない。曲がっているトンネルもある。
しばらく真っ暗でも曲がってみれば明るいこともある。ずっと真っ暗ならあきらめて元に
引き返してしまうことがあるかもしれない。でもちょっと前に進んで曲がり角を曲がれば
光が見えてくるかもしれない。どんなことがあっても人のせいではない。
すべて自分のせい。だから自分を信じて進んでいくしかない。」

【基本理念】

- 一、創立 40 周年ビジョン達成に向けての行動をはじめます
- 一、会員相互の人間力向上と絆を大切に行動します
- 一、J C 拡大の行動をします
- 一、継続的な復興支援活動を行います

【スローガン】

さあ 立ち上がろう！！ つよくあるために ～生かされ 生きて 生かす～

【基本方針】

- 一、創立 40 周年ビジョンの実施
- 一、メンバーの人間力向上

- 一、経済人としての資質の向上
- 一、次代の宝の健全な共育
- 一、OB会員とメンバー相互の交流
- 一、会員拡大（JC拡大）への絶対推進
- 一、継続的な復興支援活動を行います
- 一、一般社団法人への申請を行う
- 一、行政や各諸団体との連携・協力・交流
- 一、メディアコミュニケーションの活用